
「第9回大阪大学豊中地区研究交流会」を開催しました

2024年11月22日（金）、豊中キャンパス基礎工学国際棟にて「[第9回大阪大学豊中地区研究交流会](#)」を開催し、学内外の教職員、学生、企業関係者、市民の方など211名の参加者が、ポスター発表と情報交換会を通して交流を深めました。

本交流会は、「文理融合・異分野連携・産学共創への架け橋」というテーマを掲げ、大阪大学豊中地区の人文・社会科学系部局と理系部局の研究者が互いの研究を知り、交流を深めるとともに、併せて、新たな産学官共創活動への発展を目指し、産業界や自治体との交流の機会を設けることを目的として2016年度から毎年途切れることなく開催しています。本年度は、法学研究科がとりまとめにあたりました。

西尾章治郎総長からの開催挨拶に始まり、続いて行われたポスターセッションでは、豊中地区にある研究科・研究センター等に加え、学外から豊中市都市活力部産業振興課とサントリー文化財団の参加を得て、合計43件のポスター発表が行われ、活発な議論が交わされました。その後の情報交換会では、リラックスした雰囲気の中、所属や専門分野を超えた交流のひとつときを持つことができました。

発表者へのアンケートでは、94パーセントが「今後も交流会に参加したいと思う」との回答が寄せられました。ある発表者のコメントを紹介いたします。「大学生の時は、部活の仲間が文系・理系半々で、いろいろな話を聞く機会があったはずですが、いつの間にか狭いコミュニティの中に閉じこもっていたことに気づきました。今回交流会に参加して、異分野の人と話すことがめちゃくちゃ楽しいということを思い出しました。研究者たちの熱量・技量を肌で感じる事ができ、参加者たちの知識や能力を全て合わせればすごいことができそうな予感がしました。それに気づくことが産学連携・文理融合の第一歩かもしれません。また、異分野の方に説明するときのコツが少しだけ分かって、引き出しが増えた気がします。……「あれは夢だったんじゃないか」と思うほど、非日常の、楽しい体験でした。素晴らしい交流会を開催して下さいありがとうございます。」

また、参加者アンケートでは、実に95パーセントを超える方から「大変良かった」「良かった」との回答を頂戴しました。「とても雰囲気が良かった」「研究者ひとりひとりが生き生きと発表されている姿が印象的で、わかりやすい説明も良かった」「熱気を感じられるプレゼンが多く、好感が持てた」「色んな分野の人と出会えることがすばらしい」「異分野融合イベントの楽しさを感じた」「普段の研究では得られない情報や視点に接することができ、有益な機会となった」「活発に意見交換がなされ、文理融合につながるイベントである」「一般市民に対しても分かりやすく説明して下さるので、また参加したい」といったコメントとともに、継続開催を求める声が多く聞かれました。

初の試みとして、豊中キャンパスにあるコアファシリティ機構工作支援部門の技術職員と協働で企画・製作したオリジナルチャームも大変な人気でした。今後もAll Toyonakaで盛り立てながら、息の長い取り組みとして、大阪大学豊中地区の魅力を発信して参ります。

大学ニュースの記事は[こちら](#)

過去の交流会の様子について

[第8回大阪大学豊中地区研究交流会](#)

第7回以前の交流会の様子は[こちら](#)

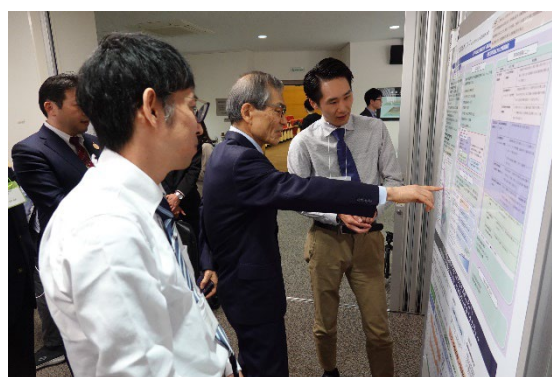
○交流会の様子



集合写真



西尾総長による開会挨拶

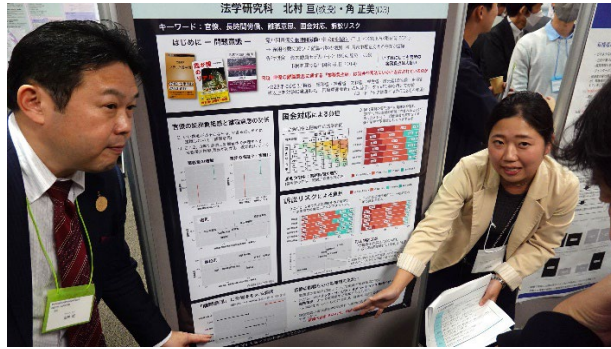


豊中市都市活力部産業振興課・高橋千尋氏らと
交流する西尾総長

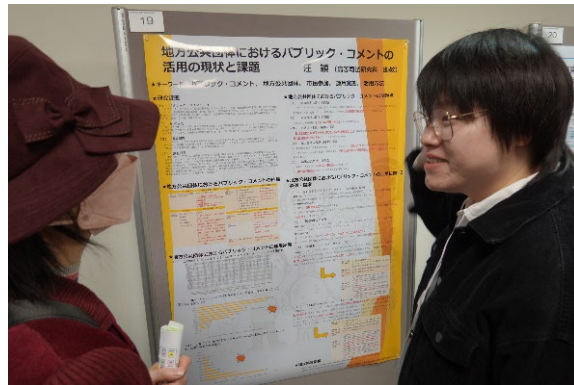


第9回大阪大学豊中地区研究交流会オリジナルチャーム

法学研究科からの発表 北村亘教授・角正美さん (D3) 「ブラック霞が関」の離職要因分析
—2023年官僚意識調査から見た日本の行政—



高等司法研究科からの発表 汪穎助教 「地方公共団体におけるパブリック・コメントの活用の
原状と課題」



ポスター発表・フリーディスカッションの様子

